

平成23年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

生徒の主体的な研究活動に培う実践的な言語力・思考力・論理力を活用し、課題の追究・解決の力を育てる「自主研究」を中心とした教科・総合の統合型教育課程の研究開発

2 研究の概要

教科や様々な経験的学びを活用して、課題の追究・解決の力を育てていくために、「自主研究」を中心とした教科・総合の統合型教育課程を開発する。具体的には、次の3点に取り組む。

- ① 「教科」と「総合」の2領域をつないで生徒個々の関心に基づく横断的・総合的な課題を、教科知をはじめさまざまな場での学習経験の中で培った力を活用して追究していく「自主研究」の時間を第1学年～第3学年に設定する。この「自主研究」を「教科」や「総合」の2領域とは独立した新たな領域として位置づけ、3領域編成とする。
- ② 道徳・特別活動・総合的な学習の時間を統合して「総合カリキュラム」（3つを統合した時間の呼称）を置き、「総合」領域とする。
- ③ 異年齢（異学年）の生徒による多様な学習集団を構成したり、多様な学習機会を設定したりするとともに、横断的・総合的な内容に関わる学習指導を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

- ① 「自主研究」を新たな領域として設定し自ら設定した課題を追究する場を作ることは、教科の学習と総合的・横断的な学習を効果的に活用し、課題を設定し解決していく力を育てていくのに有効である。
- ② 自ら設定した研究課題について、主体的に研究活動を展開する学習の場を設定することは、学習意欲を高め、「言語力」や「思考力・論理力」の育成を図る上で有効である。その結果、生徒の研究活動に対する意欲や持続力を自覚的に持つことができる。
- ③ 多様な興味・関心、ものの見方、価値観を持つ生徒同士が学び合う学習環境を工夫したり、生徒相互の評価方法を工夫したりすることは、「言語力」や「思考力・論理力」の育成に効果的に作用するだけでなく、生徒が主体的に自らの研究活動を振り返り、研究のさらなる深化を求める探究的な態度につながる。
- ④ 個人の研究課題を追究する「自主研究」を軸にして各教科の学習内容を横断的に生かす弾力的なカリキュラム編成をとることで、生徒の主体的な研究活動の内容を質的に高めると同時に、様々な視点から考察するなど、研究活動の幅を広げることができる。
- ⑤ 道徳・特別活動・総合的な学習の時間を有機的に関連付けた総合カリキュラムを実施することは、生徒が自ら身近な問題から課題を見出し、協働的に問題を解決し将来を見通していこうとする力を身に付けるために効果的である。

(2) 教育課程の特例

- ・「自主研究」の時間（年間70時間）を、第1学年～第3学年のそれぞれに新たに設定する。この「自主研究」を「教科」や「総合」の2領域とは独立した新たな領域として位置づけ、3領域編成とする。
- ・道徳・特別活動・総合的な学習の時間を統合して「総合カリキュラム」を置き、「総合」領域とする。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

① 研究主題設定の理由

国際化、高度情報化した現代社会においては、社会変化に対応できる柔軟性と適応性、機動性の育成が教育現場に求められている。OECDのDeSeCoは、国際社会に必要なキー・コンピテンシーとして、「自律的に活動できる力」、「社会的に異質な集団でともに活動できる力」、そして「相互作用的に道具（物理的ツール、言語、情報、知識）を活用できる力」の三つのカテゴリーをあげている。また、新学習指導要領にお

いては「習得」「活用」「探究」という三つのキーワードによって、「生きる力」の中核をなす思考力・判断力・表現力の育成を図ることが強調されている。

本校においては、「生徒一人ひとりが自分の興味・関心のあるものの中から課題を設定し、自分なりに方法を考え、試行錯誤しながら課題を追究し、成果をまとめて工夫して発表する」という「自主研究」を34年にわたって実践してきた。自らの知識や技能を活用し、主体的に追究するという研究活動を繰り返し行う自主研究はまさに「探究」の場である。一人ひとりの「活用する力」、論理的に思考する力を育成し、自律的な活動を促す場になりうると考える。だが、このような生徒達の自主性が最大限に尊重された学習が成立するには、生徒の興味・関心のある対象が存在し、その対象に向かって継続的な追究が行われなければならない。近年、やりたいことをみつけられない、課題を設定できない生徒、主体的に研究を進められない生徒が増え、本校の大きな課題となってきた。そこであらためて自主研究という領域を設定し学習意欲を高め課題の追究・解決の力を育てるカリキュラムを検討することとしたのである。

混沌とした現代日本社会において、必要とされるのは、自ら課題を見出しあきらめずに追究し解決していこうとする力である。全体に大きなテーマが与えられ、集団や個人で追究する学習の場合、すべての生徒に主体的な学びを促し、創造的な力を育てることは実際には難しい。自らの関心に基づく課題では、考えたい、伝えたいという動機をもって、試行錯誤を繰り返しながら課題を追究することができる。たとえ拙くても、最終的には自分だけの成果を得て、自己肯定感を高め、知・情・意のうち、情・意の部分が高める学習活動となる可能性を持つ。より研究を深めたい生徒が中学校の枠を超えた研究に発展させたり、生涯にわたる学びへとつなげるなど、選択教科的な学習やキャリア教育としての意味も大きい。また、自主研究は生徒相互の学びの場でもある。異学年合同のジャンル別グループの中での発表会、学年発表会などは、発表を通して自分の研究を省察し、互いの研究成果に学びあう貴重な機会である。一人ひとりがこだわりのテーマを持って発表しあうことで、友人の新たな面を発見し、お互いを尊重しあう場面ともなるのである。

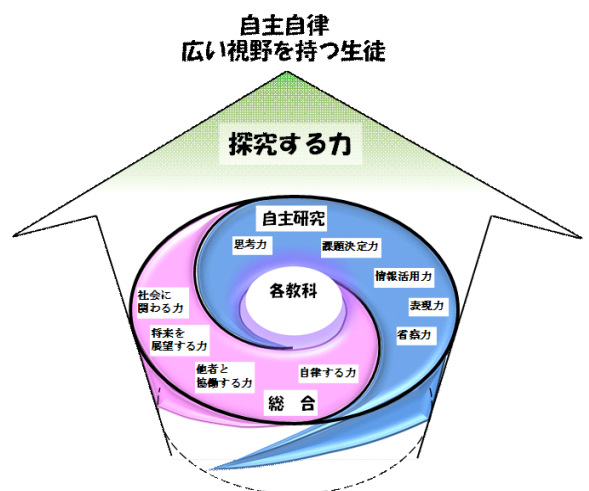
また、自主研究に取り組む一方、教科の枠を超え、現代社会を生きるために必要な課題の解決をめざし、協働的に問題解決に取り組む学習の充実も必要である（本校では、他者と関わり、活動し思考する中で知識・技能の価値を身体を通して知り、それらを磨きながら社会的文化的実践に参加・創造するとして「協働」の用語を用いている）。そこで、道徳・特別活動・総合的な学習の時間（「総合的な学習の時間」については一般的に自主研究のような個人研究も含んでとらえられているため、区別をするために「お茶の水タイム」という名称を用いることとした）を合わせて「総合」領域を設定し、それぞれのねらいを明らかにしつつ、有機的に互いを関連付けるカリキュラム（「総合カリキュラム」とよぶ）を検討して、より効果的な実践を行いたいと考えた。道徳や特別活動を通して、生徒にとって身近な問題から自己や他者を見つめ、社会に関わる上での課題に出会い、教科や自主研究の学びを活用してその課題を追究していく。それは実際に社会の中で生きる力につながるものであろう。

さらに、自主研究や総合の学習を支えるためには、教科の学習において習得した知識・技能を活用し探究する楽しさを見出す経験を繰り返すことが必要である。そのような中で疑問を持って探究する意欲が高まり、そのために知識・技能を習得しようとする循環がうまれる。そして、各教科の学習で生まれた興味・関心や身につけた知識・技能が、自主研究や総合的な学習で発展的な学びへとつながっていくと考えられる。自主研究・総合・各教科のそれぞれにおける探究の場を検討しつつ、全体として探究する力を育成する教科・自主研究・総合の統合的型教育課程の開発に取り組む必要がある。

② 研究の全体構想

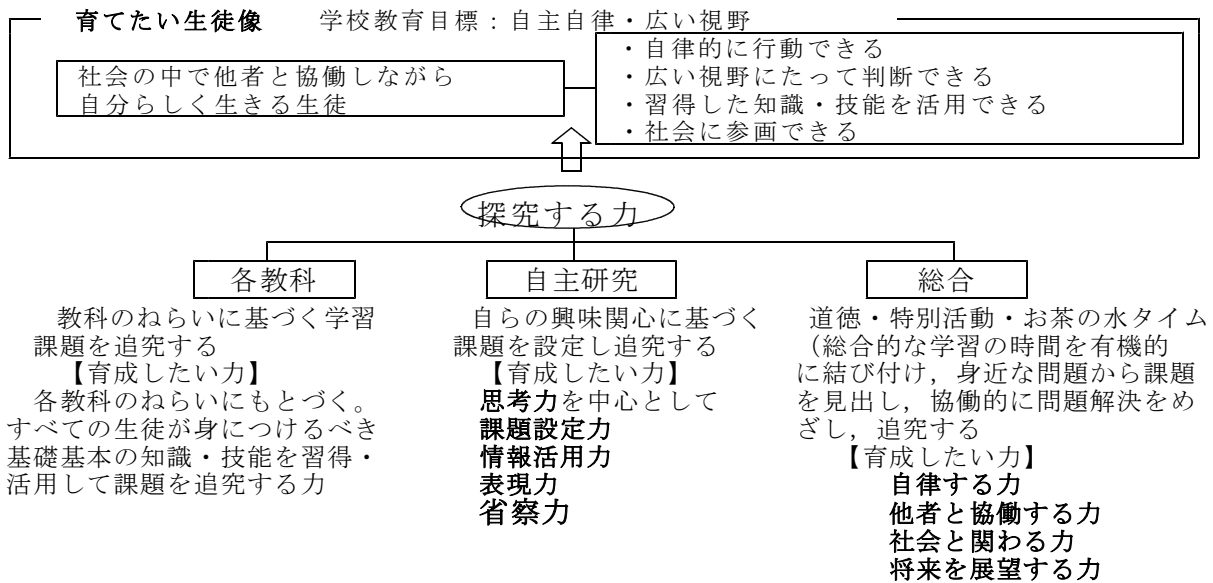
本校の育てたい生徒像「社会の中で他者と協働しながら自分らしく生きる生徒」をめざすためには学びたいという意欲を持ち自己を成長させ視野を拡げる探究の力を身に付けた生徒の育成が求められる。そのためのカリキュラムとしてこれまでの実践もふまえ下の表のような教科・自主研究・総合の三つの領域によるカリキュラムの構想を立てた。

右図はカリキュラムの全体構想のイメージ図である。さまざまな構想図での議論を経て、各教科の



学習と自主研究・総合がからみあい発展し高まっていく渦巻きのイメージを用いることになった。

自主研究では「思考力」を中心に「課題設定力」「情報活用力」「表現力」「省察力」を、道徳や特別活動、お茶の水タイム（総合的な学習の時間）では「自律する力」「他者と協働する力」「社会と関わる力」「将来を展望する力」を、重点をおいて育成したい力と設定した。



③ 自主研究

【目標】

自らの興味・関心に基づく課題を設定し追究する学習を通して、生涯にわたって主体的に探究活動に取り組む態度を育てるとともに、論理的な思考力を養い、課題設定力・情報活用力・表現力・省察力を身に付け、課題を追究し問題を解決する資質や能力を育成する。

【内容】

育成したい力	内 容
課題設定力	・ 課題を決める ・ 見通しを立て、計画的に進める ・ 振り返り再設計する
情報活用力	・ 必要な情報を収集し記録する ・ 情報を分析し評価する ・ 情報を活用し再構成する
思考力	・ 論理的・批判的に考察する ・ 直感的・感覚的に豊かに発想する
表現力	・ レポート等にまとめる ・ 発表する ・ 製作する ・ 討論する
省察力	・ 研究や取り組みをふりかえる ・ 他の生徒の研究を評価し学ぶ

1. 探究基礎Ⅰ（1年前期）… 自分の興味・関心を見つける 探究の楽しさを感じる

- ・ ガイダンスや卒業生の自主研究集録などにより、自主研究について知る。
- ・ 教科と自主研究をつなぐ授業において、探究的学習に対する意識付けを行うとともに、情報を活用する方法や表現する方法などを学ぶ。
- ・ 夏休みミニレポート（資料館・博物館等を訪問し課題を発見する課題生成型を意識する）を作成する。
- ・ ミニレポートについて発表する。講堂発表会（3年グループ別代表者による）により、上級生に学ぶ。

2. 探究基礎Ⅱ（1年後期）… 教科との接続を意識し、研究方法の基礎を学ぶ

- ・ 自分の興味・関心に応じて教科ベースグループに分かれ、教師の専門性を生かしたゼミ方式により、研究方法の基礎・基本を学ぶ。学年内で発表する。
- ・ 課題発掘セミナー（専門家・卒業生に学ぶ）等を通して興味・関心を広げ、適切な課題を設定する重要性を学ぶ。
- ・ 3年ラウンドテーブルや2年学年発表会（全員ポスターセッション）に参加し、上級生に学ぶ。

3. 探究基礎Ⅲ（2年前期）… 課題の設定、研究の進め方を学ぶ

- ・ 自分の興味・関心にもとづく課題を設定し、2・3年合同のジャンル別グループにわかれ、主体的に研究を進める。
- ・ 解き明かすタイプ・試すタイプ・つくるタイプ（課題生成型、仮説検証型、創作・発見型）などの研究のタイプや進め方を知る。課題決定票（興味・関心のマッピングから課題を明確化する、小課題と研究方法を対応させ研究の見通しをたてる様式）を作成する。
- ・ 資料収集方法やアンケートの取り方について学ぶ。
- ・ 夏季レポートを作成する（研究成果をまとめ、レポートをもとに発表原稿を再構成する）。
- ・ グループ内発表会で発表する。グループ内発表会、課題決定の話合い講堂発表会等を通して、同学年・異学年で学び合う。
- ・ 自主研究と教科をつなぐ選択授業などを通して興味・関心を広げ、研究の進め方を学ぶ。

4. 卒業研究Ⅰ（2年後期）… 研究の視野を広げるとともに、研究課題を深く追究する方法を学ぶ。根気よく追究する。

- ・1年間の卒業研究について、自分の興味・関心に基づく課題を設定し、ジャンル別グループにわかれ、主体的に研究をすすめる。
- ・課題決定票をもとに、顧問面談を通して、課題設定や研究方法を十分に検討する。
- ・ジャンルの特色に応じた研究の進め方を学ぶ。
- ・入試自宅学習期間にレポート（仮説・予想をたて検証するスタイルを意識する）を作成する。
- ・発表方法を学び、グループ内発表会や2年学年発表会（全員ポスターセッションで工夫して発表する。ラウンドテーブル、グループ内発表会や学年発表会等を通して、同学年・異学年で学び合う）

5. 卒業研究Ⅱ（3年前期）… 研究の視野を広げるとともに、研究課題を深く追究する。

- ・2・3年合同のジャンル別グループにおいて、研究の継続・発展を図り、研究の再設計を行う。卒業研究の意識を持ち、3年間の研究の集大成として位置づける。
- ・研究の再設計のために、トールミンモデルをもとにするワークシート（「根拠（データ）」、データから導き出される「主張・結論」、データから結論へ結びつける上で妥当かどうかを示す「理由付け」の3つのボックスにあてはめる）を活用する。
- ・体験的な研究方法（実験、聞き取り、インタビュー、アンケート、フィールドワーク等）を取り入れる。外部への発信（コンクール等への応募）を積極的に行う。顧問教員やその他の教員（関心分野をリストしたアドバイザーシートを活用）、専門家、専門機関の支援を受け、考察を深める。
- ・夏季最終レポート（仮説・予想と検証、分析・考察を意識する）を作成する。
- ・グループ内発表会で発表する。グループ内発表会や講堂発表会等を通して、同学年、異学年で学びあう。
- ・グループ代表者による生徒祭ミニポスターセッション、講堂発表会、学校説明会を行う。

6. 卒業研究Ⅲ（3年後期）… 研究成果を他者にわかりやすく伝える。自分の研究を振り返る。

- ・学年やジャンルをこえた小グループで実施するラウンドテーブルにおいて、下級生や社会人に研究の成果や過程を発表する。社会人からのコメントを受けるとともに、下級生へのアドバイスをを行う。
- ・研究成果や過程を振り返り、卒業後の探究的な学習に生かす。
- ・研究内容の要約をまとめ、自主研究集録原稿を完成させる。

【指導計画の作成と内容の取り扱いについて】

- (1) 自らの興味・関心に基づく課題を設定し、調査や実験・体験などを通して収集した情報を分析して活用し、考察を深めるとともに、研究成果をレポートや発表会等を通して表現し、自らの研究を振り返るという学習活動をくり返し実施する。
- (2) 各段階において、探究し続ける態度を論理的思考力を育成する手立てを工夫する。
- (3) 各教科の学習との関連付けを図り、課題設定や研究方法を学ぶ授業を設定する。
- (4) 一人ひとりの生徒の課題や研究方法に即し、創意工夫をいかす丁寧な指導を行うとともに、より

自主研究のねらい

	指導計画	形態	ねらい	育てたい力					評価
				課題設定力	情報活用力	思考力	表現力	省察力	
1年前期 探究基礎Ⅰ	6月 自主研究アイデア 6月 情報活用基礎を学ぶ授業 7月 夏休みに研究 9月 ミ自主研究発表会 9月 講堂発表会（3年）に学ぶ	学年 教科 学年 (学年) (全校)	自主研究について知る 自分の興味・関心をもつける 情報活用する方法の基礎を学ぶ	自己をみつめ、興味や関心があることを述べる 興味をもとに、見学場所を選ぶ	インタビューやインターネット検索の方法、図書室や博物館・資料館などの利用方法を身につける	見学してきた内容を理解することができる。	自主研究で調べたことをポスターにまとめることができる	互いの発表をきいて、自己や相互の内容やまとめた良い点を指摘することができる。	自己 相互 教員
1年後期 探究基礎Ⅱ	11月 教科ベースのグループでの研究（～2月） 11月 3年ラウンドテーブルに学ぶ 1月 課題発掘セミナー 社会人の方に学ぶ選択授業 2月 グループ発表・2年発表に学ぶ 3月 学年発表会（教科ベースグループ代表による学会方式）	教科ベースグループ (異学年合同) (選択授業) (異学年合同) (学年)	研究方法の基礎を学ぶ 課題の決め方、研究方法を知る 興味・関心を広げる	自分の関心をもったさまざまな情報を収集することができる。 自分の目的にあつたさまざまな情報を収集することができる。	研究課題を理解し、自分なりに考察することができる。	グループの中で自分の研究でわかったこと、考えたことをわかりやすく発表することができる	グループの研究と自分の研究の関連をふりかえり、成果をみつけることができる。先輩や社会人の方から、研究の意義や方法を学ぶことができる。	自己 相互 教員	
2年前期 探究基礎Ⅲ	5月 自分の興味に基づく個人研究（2・3年異学年合同自主研究グループ）（～9月） 9月 グループ内発表会 9月 講堂発表会 3年に学ぶ 9月 研究の進め方を学ぶ選択授業	異学年合同ジャンル別グループ 【異学年合同】 (全校) (選択授業)	課題の設定のしかたを学ぶ。 研究計画のたて方、研究の進め方を学ぶ	主体的に課題設定を行い、小課題の設定を行うことができる。 課題決めワークショップでの3年生からのアドバイスをいかす。	収集した資料から必要な情報を選択できる。 資料を適切に読み取ったり、自分の体験・感覚を分析し、疑問を発見して自分なりに追究することができる。	目的にあわせて表現方法を工夫し、研究成果を発表することができる。	自分の研究をふりかえることができる。 異学年合同グループで3年生の発表から、研究方法について学ぶ。良い点・改善点を指摘できる。	自己 相互 教員	
2年後期 探究発展Ⅰ (卒業研究)	11月 自分の興味に基づく個人研究（自主研究グループ）（～9月） 11月 3年ラウンドテーブルに学ぶ 2月 グループ内発表 3月 学年発表会（全員によるポスターセッション）	ジャンル別グループ (異学年合同) (異学年合同) (学年)	研究の視野を広げるとともに、研究課題を深く追究する方法を学ぶ。 根気よく追究する。 まとめ方・発表方法を学ぶ	調べたり試したりした内容から課題を生産する。 見通しをもった課題設定を行い、小課題とそれに対応した研究計画を立てることができる。	情報を適切に解釈し、評価することができる。 研究を通して、自分なりに考察し、複数の資料や手法、豊かな発想のもとに追究することができる。	目的にあわせて表現方法を工夫し、自分の解釈や考え、感じた内容を説明することができる。	同学年の生徒の研究に学ぶ。 自分の研究に不足している点に気づくことができる。	自己 相互 教員	
3年前期 探究発展Ⅱ (卒業研究)	(継続) (2・3年異学年合同自主研究グループ) 9月 グループ内発表 9月 代表による全校講堂発表会 9月 代表による生徒発表	異学年合同ジャンル別グループ (異学年合同) (全校)	研究の視野を広げ、研究を再設計する。 研究課題を深く追究する。	研究内容をふりかえり、仮説検証など、研究の最終目的に向けた研究計画を立てることができる。	情報を再構成し、活用することができる。 専門家の意見などをもちに、さらに情報を収集できる。	根拠をもとに論理的に考察し、自分の仮説を検証できる。 専門的な意見などをもちに、考察を深めることができる。	自分の研究成果をレポート・作品で他者にわかりやすく表現し、発信することができる。	自己評価や相互評価をふりかえり、研究を再設計することができる。 2年生に研究の意義や方法を伝える。	自己 相互 教員
3年後期 探究発展Ⅲ (卒業研究)	10月 自主研究集録作成 11月 自主研究ラウンドテーブル	学年 (異学年合同)	研究成果を他者にわかりやすく伝える。 自分の研究を、肯定的にふりかえる。			研究のサマリーを効果的にまとめることができる。	3年間の研究成果や課題をふりかえり、達成感や充実感、自己肯定感を感じる。今後の目標。	自己 相互 教員	

発展的な学習へと結び付けるようにする。

ジャンル別グループ、学年やクラス

をこえたグループ、学年や全校での発表会など、多様な発表の場を設定し、互いの研究に学びあう学習を効果的に実施する。

(6) 外部人事の積極的な活用をはかり、学習を支援するシステムを構築する。

〔課題ジャンル別グループ〕(5) 異学年合同のジャンル別グループ

芸術と人間	1 文学研究・創作 3 美術	2 映画・演劇 4 音楽
言語と記号	1 言語	2 記号
くらしと文化	1 社会と文化 3 健康	2 歴史 4 生活
自然と環境	1 理科一般	2 工作・栽培
運動	1 文化とスポーツ	2 スポーツの科学

③ 総合

【目標】

道徳・特別活動・お茶の水タイム（総合的な学習）の時間を有機的に結び付け、身近な課題や多様な価値観の関わる課題について、協働的に問題解決をめざして追究する活動を通して、人間としての生き方について自覚を深め、自律した人間として社会と関わり、将来に向けて自己の生き方を考える態度を育てる。

〔総合で育成したい力〕

自律する力 他者と協働する力 社会に関わる力 将来を展望する力

〔道徳〕道徳教育の目標に基づき、各教科、お茶の水タイム（総合的な学習の時間）及び、特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的な価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

〔特別活動〕望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

〔お茶の水タイム〕横断的・総合的な学習を通して、多様な価値観の関わる課題について、問題解決をめざして協働的に追究する学習活動を行い、主体的に問題解決や探究的な学習活動に取り組む態度を育てるとともに、創造的・協働的に問題を解決する資質や能力を育成する。

育成したい力	お茶の水タイムの内容
自律する力	・自ら責任を持って意思を決定し、見通しを持って行動する ・教科の学習や自主研究で得た知識・技能を活用し、論理的に考え判断する
他者と協働する力	・多様な考え方を学び、価値観を認める・課題の解決に向けて計画的に実践し、省察する ・互いの考えを伝え合い、実践的コミュニケーションを行う・協働して問題を解決する
社会に関わる力	・必要な情報を収集し、分析・評価する・自分達の考えや成果をまとめ表現する
将来を展望する力	・学校外の人々と積極的に関わり、課題の解決に向けて社会の一員として考え行動する ・自己の将来を考え前向きに努力する

【総合領域全体の指導計画の作成と内容の取り扱いについて】

(1) 道徳・特別活動・お茶の水タイム（総合的な学習の時間）の全体計画及び年間指導計画の作成にあたっては、学校における全教育活動との関連の下に、それぞれの目標及び内容、育てようとする資質や能力をふまえ、互いの有機的な関連付けを図る。

(2) 総合の目標や内容については、生徒の状況を考慮し、以下の視点をふまえる。

1年…自分自身とそのまわりに関することを取り上げ、身の回りや生活の中にある問題の所在に気付く。

2年…社会との関わりに関することを取り上げ、広く社会に目を向け、問題の解決のあり方を考える。

3年…自己に関することを取り上げ、改めて自分を見つめなおし、自分の関わり方を考える。

(3) 道徳・特別活動・お茶の水タイム（総合的な学習の時間）の内容や重点的に扱う時期については、以下の活動の分類に留意しながら年間指導計画を作成し、年間を通してそれぞれの目標が達成されるように留意する。

A 特設道徳…人間の生き方を考える時間として、重点をおいて扱う

人間愛、生命尊重、人格・人権の尊重、国際的視野、正義

B 行事 …行事を中心に道徳・特別活動の両面から目標を設定し、内容を構成する

C 学級・学年活動 …学級・学年活動を通して道徳・特別活動の両面から目標を設定し内容を構成する

D 進路 …自己の生き方を考える時間として、道徳・特別活動の両面から目標を設定し内容を構成する

E お茶の水タイム…道徳や特別活動、教科の学習との関連を図り、行事や進路と結び付けた課題や学年で設定した課題について、目標をふまえて内容を構成する。

(4) 道徳・特別活動・お茶の水タイム（総合的な学習の時間）を有機的に関連付ける総合カリキュラムは、生徒の実態や総合の学習活動の特質等に応じて、特別時間割期間を設けて集中的に授業を行ったり、時期によって時間配分を工夫するなど、創意工夫を生かして弾力的に時間割を編成することができる。

〔総合カリキュラム表 一部〕

活動の分類	育成したい力				総合カリキュラム			異学年交流
	① 自律する力	② 他者と協働する力	③ 社会と関わる力	④ 将来を展望する力	学年ごとの道徳的・特活的視点			
					第1学年 自分自身とそのまわり	第2学年 社会	第3学年 自己	
A 特設道徳								
B 行事								
C 学級・学年活動								
D 進路								
E 総合的な学習								
	●	■	◇	○	*身の回りや生活の中にある問題の所在に気付く	*広く社会に目を向け、問題の解決のあり方を考える	*改めて自分を見つめ直し、自分の関わり方を考える	
A 「特設道徳」 ・人間愛 ・生命尊重 ・人格、人権の尊重 ・正義 ・国際的視野	●	■	◇	○	●自己理解 ■他者との協力 ■他者への感謝 ●自然愛護 ●正義・公正公平 ■国際的視野	●自己理解 ■他者理解 ■他者への感謝 ●畏敬の念 ●正義・公正公平 ■国際的視野	●自己の向上 ■他者への思いやり ■個性の尊重と寛容 ●畏敬の念 ●正義・公正公平 ■国際的視野	
B 入学式	●	■	◇		■礼儀と適切な行動 ●自己の向上 ◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	■礼儀と適切な行動 ●自己の向上 ◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	■礼儀と適切な行動 ●自己の向上 ◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	
任命式始業式 歓迎会		■	◇		◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	◇学校の二員の自覚 ◇学校の一員の自覚	☆
修学旅行	●	■	◇				◇集団生活の向上 ◇役割と責任 ◇集団生活の向上 ◇正義・公正公平 ■友情 ■男女の理解と尊重	

(5) お茶の水タイムの指導計画

の作成にあたっては、次の事項に配慮する。

- ①各学年の取り組みや状況を鑑みて、道徳・特別活動と密接な関連をはかり、身近な問題や教科等の枠組みを超えた横断的・総合的な内容から、現代社会に生きる上で必要と考えられる学習課題を設定する。前期は1年生徒祭・2年林間学校・3年進路と結び付けた内容後期は各学年で設定した学年テーマに基づく内容とする。
- ②小グループでのディスカッションやグループワーク、クラスや学級での話し合いなど、さまざまな学習集団の中で他者と協働しながら課題を解決しようとする学習活動を行い、他者の考えや多様な価値観を学ぶ機会とする。
- ③学習内容については、中学生の時期に学ぶことが効果的であると考えられる内容であるように、適時性に配慮し、教科で習得した知識や技能を活用しながら、各教科の学びをつなぎ、協働的に問題解決に取り組むことのできる内容とする。
- ④自分の考えを書く、討論する、発表する、創作表現するなどの学習活動を積極的に実施する。
- ⑤体験、見学や調査など創意工夫を生かした多様な教育活動を行い、外部人材の活用を積極的にすすめる。

〔お茶の水タイムの年間計画〕

目標	前 期	後 期
1年 自分自身と周り	生徒祭 お茶の水タイム ・生徒祭テーマに合わせ、クラスごとにプロジェクトを企画し、実行する。 ・討論を通して協働してプロジェクトを実行し、表現する方法を学ぶ 例)「生徒祭(テーマ煌き)プロジェクト」 関連教科例:国語・美術	学年テーマ お茶の水タイム ・教員から、自分や身の周りの人々の関わりについて考察するための課題を提示し、追究する ・社会への関心を深め、自分と周囲の人々との関わりに気付く。資料の収集や、社会人の方のお話を伺う、体験する等、追究のしかたを学ぶ 例)「いのち～生まれる～」 「福祉～身の回りに目を向けよう」 関連教科例:国語・社会・保健・家庭
2年 社会の関わり	志賀高原 お茶の水タイム 志賀高原林間学校において、ルールづくり、自然との共生などをテーマとする活動を企画し、実行する。 自然のかけがえのなさを学び、環境を保全するための課題を考察する。成果を作品に表現する。 例)「志賀高原林間学校」 関連教科例:体・理・社・国・美	学年テーマ お茶の水タイム 現代社会について考える課題を設定し、社会の中で生きる上での課題を追究する。 資料を収集して情報を選択判断したり、実際に社会で活動する方への元へ伺うなど社会に関わる経験を通して視野を広げ、討論を通して、様々な問題や多様な価値観に気付く。 例)「共生～ひと・こころ・いのち～」 「現代社会を考える」 関連教科例:国・社・技・英・理・体・数
3年 自己をみつける	進路 お茶の水タイム 修学旅行で農業を営む家庭の生き方や職業観に学んだり、自己の将来や職業について追究する。 仕事に対する姿勢やねらいを学び、自分の生き方につなげる 例)「進路を考える」 関連教科例:国語・社会	学年テーマ お茶の水タイム 卒業プログラム(3月集中)でこれまでの学習をふりかえり、実際に社会の中で自分がどのように行動するかを考える 将来に向けて、討論や発表を通して、自己の生き方を考える。 例)「法と社会」「環境問題」 関連教科例:社会・理科・国語・技術

④【教科】

各教科の学習において、探究的な学習活動に取り組むとともに、自主研究や総合の学習を支える「探究する力」を育てる授業づくりに取り組む。

	自主研究や総合に関連して教科として育成したい力
国語	・言語活動の過程を企画し、メタ認知しながら調整し、運営していく力

社会	・社会に関心を持ち、社会の中で体験的に学ぶ力 ・諸資料に基づいて、多面的・多角的また論理的・批判的に考察する力
数学	・日常生活から自ら課題を発見する力 ・根拠を明らかにして、筋道立てて説明する力 ・ふり返り、次の課題を発見する力
理科	・自然の事物、現象の中から問題を見出す力 ・課題を意識して観察・実験などを主体的に行い、得られた結果を分析し考察する力
音楽	・表現のために原理となることに着目する力(科学的な根拠に着目する力～発声・姿勢・構え等)・他者との かかわり・社会とのかかわりで音楽みつめる力
美術	・主題を生み出す力(感じ取る力、考える力を基に) ・表現の構想を練る力(色彩や形、材料などを生かし、表現の組み立て(見通し)を考える力)
保健 体育	・さまざまな身体パフォーマンスを記録や観察により協働して科学的に分析したり、表現することで、 運動がよりよくできるようにする力
技術	・技術をさまざまな視点・角度から捉え、課題を開拓し設定していく力 ・未来の技術を考え創造していく基礎的な力・技術・技能をいかして、課題を追究する力
家庭	・身近な生活に目を向け、課題を見つける力・身近な生活に関する課題を解決する力 ・身近な生活を実践探究しながらふりかえり、よりよい暮らしを目指す力
英語	・習得・活用の反復とその積み重ねの中で学習していこうとする姿勢・英語を言語面(語彙・語法・文 法・表現など)から分析したり探究したりする力・広く英語に関連する分野に対する興味・関心や 探究心・英語で表された情報を収集・整理し、それを発信する力

- (1) 自主研究に関連付けて、「興味・関心を広げ、研究の方法を学ぶ」授業を特設する。
(2) 『『探究する楽しさ』のある授業づくり』をテーマに、以下の点をポイントとして、各教科の
授業実践を行う。

- ア 生徒が取り組みたいと思う「学習課題」の工夫
・課題の与え方で、生活とつながる課題を開発・必然性が感じられたり学ぶ意欲を高める工夫
イ 生徒が主体的に活動する「学習過程」の工夫
・課題をとらえ、追究・探究して解決するという学習の流れを工夫
・「教科内容を理解する過程で、取り組ませる学習活動」や「学習課題を解決・達成する過程で取り組
ませる学習活動」の工夫
ウ 学習成果の表現・発表やふりかえりの工夫
・活動のゴール(達成目標)としての表現や発表
・学習成果を自ら確かめて次の探究につなぐ振りかえりの工夫・自己達成感や自己効力感の高揚

- (3) 年間指導計画の中で、「『探究する楽しさ』を見出す授業」として重点をおく単元について、「探
究する力」(課題設定力・情報活用力・思考力・表現力・省察力)に着目して整理した一覧表を
作成する。
(4) 研究授業を実施し、生徒の主体的な学習の姿や生徒の変容に着目しながら、教科を超えて授業
のねらいや授業づくりについて省察しあう。

〔探究する楽しさを見出す授業の学習内容例 一覧表 (一部)〕

	学習内容	ねらい	課題設定力	情報活用力	思考力	表現力	省察力
国語	1年後期 ユニバー サルな心 をめざし て	新聞を紹介 して相互批 評する		ユニバーサルな心で町の 現状を調べ、誰もが生活 しやすくするために配慮 されているところと問題 となるところを指摘す る。関連する新聞記事 を見つける。	調べた現状や記事をも とに、誰もが生活しや すい社会のありかたに ついて考えたり、話し あったりする。発表を きいて、他の人の考え を共有し考えを深める。	自分の考えを根拠 を明確にして書け る。調べたことや、 自分の考えをポス ターにして発表す る。	
社会	2年前期 江戸時代 の「なぜ」 を追究す る	自分の興味関 心から「なぜ ～なのか？」 という形式で 課題を設定し、 さらに掘り下 げて追究する。	博物館や史跡などを 尋ねて、自分なりの 興味関心を見つけ、 「なぜ～なのか？」 という形式で主題を 設定できる。設定し た理由を説明できる。	課題を見つけるために、 様々な情報を収集したり 選択したりできる。 収集した資料から課題に 対する十分な根拠となる 情報を選択できる。	「なぜ～なのか？」とい う課題について、十分 な根拠を示して説明し ている。資料の適切さ を吟味したり、説明の 十分さを検討したりで きる。	読み手を意識した みやすさ、読みや すさを工夫できる。 画用紙1枚の中に、 自分の考えを適切 に表現できる。	まとめたレポート内容 に、授業での学習内容や 他者のレポート内容を 生かし、掘り下げること ができる。根拠の不十分 さや不適切さに気づいて補 足や訂正ができる。

(2) 研究の経過

第一 年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「自主研究」を中心とした教科・総合統合型の教育課程の試行。 「教科」と「総合」の2領域編成の実施。2領域をつなぐ「自主研究」の時間の実施。 ○「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の指導法の開発と試行。 ○学び合いを生かした学習環境作りや相互評価など協働的に学び合う指導法の開発と試行。 ○学年に応じた発表の指導法の開発と試行。 ○公開授業および研究協議会の実施。(平成21年11月開催) ○第一年次の総括と第二年次の課題の設定および計画の修正(自主研究を領域として独立させる)。
第二 年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「自主研究」を中心とした教科・総合統合型の教育課程の修正プラン実施。 ○「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の指導法に関する第一年次の評価をふまえた修正プランの実践。 ○学年に応じた発表の指導法の開発と改善。 ○「教科」と「自主研究」「総合」領域の関係に関して、先行研究校(福井大附属中、香川大附属高松中等)の成果をふまえた本校の教育課程案の検討。 ○卒業生アンケートの実施。(10～11月)

	<ul style="list-style-type: none"> ○大学の研究チームと連携したデータ分析。 ○公開授業および研究協議会の実施(平成22年11月実施)。 ○第二年次の総括と第三年次の課題の設定および計画の修正。
第三年次	<ul style="list-style-type: none"> ○「自主研究」を中心とした教科・総合統合型の教育課程の修正プラン実施。 ○「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の指導法に関する第二年次の評価をふまえた修正プランの実践。 ○「自主研究」「総合」領域における、育成したい資質・能力、学習内容についての一覧表の作成。 ○「教科」と「自主研究」「総合」領域の関係に関して、研究校(福井大附属中、上越教育大附属中、広島大附属福山中、横浜国大附属中、京都教育大附属京都中、和歌山大附属中、大阪教育大附属池田中等)の成果をふまえた本校の教育課程案の検討。 ○「自主研究」を中心とした教科・総合統合型の教育課程の評価。 ○「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の指導法に関する評価。 ○「教科」と「自主研究」「総合」領域への関わり、探究する楽しさのある授業づくり(学び合いをいかした学習環境づくりなど)に関する評価。 ○公開授業および研究協議会の実施。(平成23年11月開催) ○最終年次の研究全体の総括を行う。

5. 評価に関する取り組み

第一年次	<p>【生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定、適切な研究方法の選択、研究内容の考察・探究、研究成果のまとめや表現方法の習得等、「自主研究」における様々な研究活動を段階的に評価する方法を試行するとともに、検討を加えていく。 ・「自主研究」全体に関する自己評価、質問紙調査(2月)等を実施して評価する。 <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発開始時における調査を行い、生徒たちの実態を把握する。 ・保護者・教員への質問紙調査、実践に対する調査・分析を行い、次年度の計画に生かす。 ・公開授業および研究協議会を通しての外部評価を行う。 ・「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の有効性について検討し、次年度の計画に生かす。
第二年次	<p>【生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自主研究」における様々な研究活動について、段階的に評価する方法を検討する。 ・「自主研究」のポートフォリオをもとに、「言語力」や「思考力・論理力」の育成について評価する。 ・「自主研究」や総合的な学習の時間に関する自己評価、教科・自主研究・総合に関する質問紙調査(11月)、思考力や意識に関する調査(6月・11月)等を実施し、第一・二年次の評価結果と関連づけて、学習状況や思考力の伸びについて分析・評価する。 <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者(12月)・教員(2月)への質問紙調査、実践に対する調査・分析を行い、次年度に生かす。 ・公開授業および研究協議会を通しての外部評価を行う。 ・「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の有効性と評価方法について検討し、次年度の計画に生かす。
第三年次	<p>【生徒に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自主研究」における生徒の研究活動に対する段階的な指導や評価の記録をもとに、生徒の変容や教科の学習との関連などを評価する。 ・生徒のポートフォリオ(レポート、研究集録等)を分析し、「言語力」や「思考力・論理力」育成の有効性について評価する。 ・「自主研究」や「総合」領域に関する生徒の自己評価、教科・自主研究・総合全体に関する質問紙調査(11月)、第一・二年次の評価結果と関連づけて学習状況や思考力の伸びについて分析・評価する。 <p>【研究に対する評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・教員への質問紙調査、実践に関する調査・分析を行い、研究全体の評価を行う。 ・公開授業及び研究協議会(11月)、運営指導委員会を通して、研究全体の外部評価総括を行う。 ・「自主研究」を中心とした教科・総合統合型の教育課程全体について評価する。 ・「自主研究」における「言語力」や「思考力・論理力」育成の指導法について評価する。 ・「教科」と「自主研究」「総合」領域への関わり、教科の実践に関して評価する。

6. 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 生徒への効果

生徒の自主研究の成果としての2・3年生グループ内発表、3年の講堂発表、研究集録の内容、生徒対象質問紙調査、教員からみた生徒の変容等から、仮説に対し、以下のようにとらえた。

- 生徒の発表や研究集録原稿等の研究成果から、自主研究という時間を3年間経験することは、課題を設定し追究する力を養う上で有効であると考えられる。生徒の興味・関心に基づく多様な課題に対しても、一人ひとりにあわせた段階を踏んだ支援、ジャンルの特色をいかした支援を行い、課題の設定や研究方法を学び論理的に思考する力を育成する手立てを設けることで、探究する力の育成へとつながると考えられる。
- 生徒アンケートの結果から、「ものごとを追究しようとする気持ち」や「充実感」の高まった生徒がこれまでよりも増加していた。課題決定票やトールミンモデルを用いたワークシート等を活

用して課題設定や仮説検証型の研究方法に関する重点的な指導を行ったこと、興味・関心を引き出したり、調査、レポート、発表のしかたやジャンルに応じた研究方法を学ぶ授業を行ったこと等の成果を反映し、資料やデータを活用して根拠付けて論理的に説明しようとする生徒が増加した。聴き取り調査、現地訪問などをする生徒が増え、昨年度研究が不十分と見られた生徒でも論理的に考えようとする姿勢が高まったと感じられた。また、大学や卒業生等による支援の体制づくりを行い、課題発掘セミナーや専門家や社会人のアドバイスを受ける機会を設けたことも効果的であった。

一方、その成果が生かされている度合いは生徒によって異なる。学習面でも力があり、研究への意欲も高い生徒は、中学生の範囲を超えた発展的研究となった。意欲が高い生徒の中には、学習面では力が不十分とされていたにもかかわらず思考力の伸びがみられたり、研究成果は不十分でも大きな達成感を得た者もみられた。逆に、学習面での力は高くても、自分で課題をみつけることへの苦手意識をもった生徒が一部にみられた。また、数名ではあるが、最後まで自分の興味がわからない、研究を進められない生徒もいた。顧問と話すうちに思考が整理され、課題を絞り込むことができたり、自分らしい研究の視点に気づかせるアドバイスをきっかけに主体的に研究を進められるようになることも多く、生徒一人ひとりにそった、より丁寧な支援の工夫はなお必要である。

- グループ内発表、講堂発表、ラウンドテーブルの発表や振り返りをみると、発表の場があることが、生徒が基礎的な知識や技能の習得、それらを活用した発展的な学習、生涯の学びへとつなげることに効果的であることが読み取れる。自分の考えを聴き手に伝える、という言語活動を通して、より論理的に相手にわかりやすく伝えようという気持ちが生まれる。先輩や友人の発表を聴き、アドバイスを得ることによって、自分自身の研究を振り返ることができるようになる。特に社会人の方に発表をきいていただいたラウンドテーブルは、達成感も大きく、教員からとは違う視点での励ましやアドバイスを受けたことが大きな成果となり、充実感と結び付いたと思われる。地域の方々や卒業生とのラウンドテーブルも有効と考えられる。
- 教科と自主研究をつなげる授業を行ったり、探究的な学習の場を増やすことで、生徒の興味関心を広げたり、研究方法を学ぶ機会とすることができた。各教科においては、自主研究や総合に関連して育みたい力を明確化し、「探究する楽しさ」を見出す授業づくりに取り組み、重点をおいた単元の一覧表を作成して実践を検討しあった。各教室のプロジェクター等の授業環境づくりや、学習成果を掲示するコーナーの充実も効果的であった。授業への取り組みの様子から、各教科の実践が、探究的な学習への意欲の向上、探究する力の育成へとつながっていると考えられる。
- 道徳・特別活動・お茶の水タイムを関連付けた総合カリキュラムにおいて、自治意識を高めたり、身の周りや社会の問題を捉える取り組みを行うことができた。

総合領域全般にわたって、生徒の主体的な活動を重視し、実行委員などリーダーとなる生徒を中心に、係活動や班活動を取り入れ、生徒の話し合いをもとに企画・運営を行い、ルールづくり、役割と責任、協力などを体験的に学んだ。「共生」「現代社会を考える」「いのち」「絆」等の学年テーマのお茶の水タイムでは、話し合いや発表、体験学習などを通して、身近な題材、教科の枠組みを超えた内容について、協働的に学ぶ学習に取り組んだ。

② 保護者への効果

保護者対象質問紙調査によると、子供の自主研究のテーマをほとんどの保護者が認識しており、自主研究に関しても肯定的な回答が多い。単なる受験勉強では身につかない力を育ててほしいと積極的なコメントを記入する方も多く、代表生徒の発表会に参加する保護者も増えている。

一方、総合についてはやや認知度が低い傾向があり、より情報を伝える必要性が感じられるが、その意義については肯定的に評価されている。今後、道徳や特別活動の目標に結び付けて総合的な学習を行う場合、重点をおいて扱ってほしい項目としては、どの学年も「国際的視野」「将来を展望する」「感謝の心」「社会の一員としての自覚」「礼儀と適切な行動」が上位にあがってきており、内容検討に生かしていきたいと考えている。

③ 教員への効果

研究開発に関する教員対象質問紙調査によると、習得活用探究を意識した授業づくりや、自主研究とのつながりを意識した授業づくりを実践できたと感じる教員が増加している。研究の小グループ会合や研究会を通して、自主研究、総合、教科、評価に関する各教員の意見交換がなされ、全体での意識の共有化、実践への取り組みが進んだと感じられる。教科が連携する授業も実践された。

授業研究会においては教員や授業の展開だけでなく、一人ひとりの生徒の変容に着目することで、教科をこえて意見を交換できるようになった。省察を重視し、なごやかな肯定的な雰囲気での授業研究会は、教員どうしの学び合いの場となり、新しい視点の発見へとつながるものとなった。

(2)実施上の問題点と今後の課題

- 研究1年目は、落ち着いて授業に取り組めない生徒達への対応に追われ、研究に取り組める状況ではないと感じる教員が多かったが、3年目に入り、探究を意識した新しい授業づくりや生徒への支援の工夫が広がった結果、全体的に、生徒が教科の授業や自主研究に集中し、学習に前向きに取り組む雰囲気が高まってきた。生徒の主体的な研究活動の成果もより眼に見える形に表れるようになって、生徒自身も、また教員自身も探究の楽しさを感じる機会が増加したと思われる。じっくりと研究に取り組む時間を確保することはつねに課題であるが、研究を通じて、教科をこえ、経験年数をこえ、教員の学びあいや研究への意識が高まったことが大きな収穫であった。

3年間の研究を通して、最も議論を重ねたのは、教科・自主研究・総合はどのように関連させるのか、それぞれで身に付けた力がどのように互いに生かされるかという点である。教育課程全体を見渡す必要のある研究であったため、研究の全体構想の検討に大きく時間をかけることとなったが、自主研究と総合を明確にわけること、道徳・特別活動・総合的な学習を結び付けることに対しても様々な意見があり、全体の関連を表す構造図も次々と変化していった。実践の上では、総合における道徳の位置づけやカリキュラムの柱に関する意見の集約に時間がかかったことなどから、総合の検討と実践の分析がまだ途上ではあるが、今年度のまとめもふまえ、来年度以降も本校なりに研究を継続し、より良い自主研究や総合のあり方を検討していくことを確認している。

- 自主研究については、探究する力を育てる一人ひとりへの支援の工夫と共有化をはかり、どの教員でも支援のポイントがわかる指導書の作成や外部人材を活用する支援体制づくりをさらに進める。また論理的な思考力を育成するための手立てを工夫するとともに、育成したい力が身に付いたかどうかを判断する指標の検討をさらに進めることが課題である。

総合については、「総合」領域における、育成したい資質・能力、学習内容についての一覧表を作成し、総合カリキュラムの全体像と指導計画の明確化をはかり、道徳や特別活動の視点をしっかりと位置づけていくという必要性を確認している。学年ごとに企画するお茶の水タイム（総合的な学習の時間）については、学年の特色が強くなりがちであるが、共通のねらいや協働的に学ぶ場を設定した学習活動について、学年をこえて理解を深めることができた。道徳のねらいと3年間の積み重ねをさらに検討し、道徳・特別活動・総合的な学習を意図的に関連づけたカリキュラムを構成し、総合的な学習については協働的な学び、教科をこえる学びに焦点をあてていきたい。中学生にとって、身近な体験と結び付けて学ぶ意義は大きく、総合的な学習の時間が縮小される中で、道徳・特別活動・総合的な学習の時間をトータルで捉える視点は重要である。今後は、題材や意図的な討論学習の組み込み方などをさらに検討し、実践の成果を生かし、3年間のプランづくりをより充実させていきたい。

教科については、研究を通して、各教科のねらいと習得・活用・探究の考え方を明確にし、自主研究と教科のつながり、教科間や教科内での相互理解を深めることができたといえる。各教科の学びが具体的にどのように自主研究や総合を支えたか、自主研究や総合の学びがどのように各教科にいかされたという評価については、今後も検証をしていくこととしている。今後も、各教科の特色をいかした探究の楽しさを見出す授業づくりを工夫していきたい。

- 自主研究については、あらためて、個人の関心に基づく主体的な研究活動をしっかりと教育課程に位置づける意義を強く感じている。選択教科が削減されたことにより、個人の関心にもとづく学習の機会はますます減ってきている。全体に大きなテーマが与えられ、集団や個人で追究していく学習の場合、すべての生徒に主体的な学びを促すことは実際には難しい。一人ひとりが関心に基づく課題を選び、3年間にわたってくりかえし追究できる場を確保することは大きな意味がある。自主研究によって、主体的に研究をすすめ、高いレベルまで発展的な学習を進める生徒もみられる。また、学習面に困難がある生徒であっても、主体的な研究活動をすすめていくための支援を行うことで、興味あるテーマを見出し、日頃教科の学習で活躍する場面がなくても、自主研究の発表の場では自分が主人公となり、学習への意欲を喚起する機会となしうる、ということもわかった。

今回、生徒達が生き生きと自分の研究成果を発表し、学びあう姿に、大学の教員や多くの社会人の方々から「このような学習こそ必要である」「卒論テーマを決められない学生、自ら考える創造的な仕事ができない社会人が増えており、ぜひこのような探究する力を身に付けさせてほしい」という評価をいただくことができた。課題の追究、解決の力を育てる自主研究のあり方について、今後もさらに検討をすすめて、その意義を明らかにしていきたい。